

指定討論コメント

塩出浩之（京都大学）

朴漢珉報告へのコメント

感染症対策において開港地の外国領事がイニシアティブをとり、行政権や主権が問題になるという状況は、市川報告で提示された日本の経験と極めて共通しており、興味深い。

清国理事官が、朝鮮の海関税務司と共同で感染症対策にあたっているようにみえるが、両者はどのような関係だったのか。

また市川報告では近代医学が重要な論点となっているが、この点は朝鮮ではどうだったのか。

市川智生報告へのコメント

やはり感染症対策のイニシアティブが重要な主題となっているが、医療の水準、つまり近代科学という要因が明確にされたのはたいへん有意義である。

日本の開港地には、かなりの人数の中国人がいたはずであるが、彼らは感染症対策においてどのような処遇を受けたのであろうか。

日本が近代医学の受容とともに国内の感染症対策においてイニシアティブを握った経験は、日本の植民地統治にはどのような影響を与えたのだろうか。

余新忠報告へのコメント

衛生と防疫という主題について、外来性と伝統的要素という論点を提示されたのは興味深い。

ところで、衛生や防疫は西洋からの舶来品だったと指摘されているが、そもそも、コレラやペストのような疫病こそ舶来品というべきではないか。もちろん、コレラやペストが西洋からやってきたわけではない。しかし、パンデミックの要因は、西洋諸国によって東アジアが世界市場に統合され、かつてない人の移動が生じたことにある。疫病を追いかけて、衛生や防疫が後からやってきたのではないか。

また朴報告や市川報告で論じられているような衛生・防疫と行政権・主権との関係は、中国ではいつ、どのようにして意識されるようになるのか。